

岩国短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

岩国短期大学の概要

設置者	学校法人 高水学園
理事長	宮川 明
学 長	黒田 耕誠
A L O	新庄 方子
開設年月日	昭和46年4月1日
所在地	山口県岩国市尾津町2-24-18

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		150
キャリアデザイン学科		50
	合計	200

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

岩国短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念の今日的解釈については、明確になっている。実学、労作教育を柱にした各学科の教育目的・教育目標が示され、年度末に常に点検されている。

両学科とも一般教養科目の改善を行い、学生実態についての教員調査も実施しており、目的に沿った人材の育成に合致した教育内容であると認められる。

教育施設、特にLL演習室、ML演習室が充分活用されている。教職員は授業、生活両面で学生を育てる業務に意欲的である。また「楽学」のもとでの師弟同行の様子が構内参観時にも見受けられ充実した教育体制がとられている。

教員の授業に対する学生評価を活用し、授業改善の足跡がみられる。資格取得率と就職率は教職員の努力によって十分に目的を達成している。

複数回実施されているオリエンテーションや、チューター制の採用にみられるように、個別指導を中心にして全職員が取組み、適切に運用されている。

演奏活動、ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動、公演活動などが活発に行われ、市民に広く触れ合う機会が提供されている。公開講座を大規模に実施し、子育て支援サークルや地域機関、各種団体との交流を積極的に実施している。ボランティアサークルが中心となり行事イベントへ参加している。施設、幼稚園、保育園との交流活動も盛んである。地域社会のボランティアは「地域に生きて働く人材の育成」であり、建学の精神の根本理念としての取組みである。活動には教職員、学生ともに参加している。また、高等学校への出前授業や作品展の企画なども行われている。地域総合科学科としてのキャリアデザイン学科を市民参加型とする取組みに期待したい。

管理運営はおおむね良好と評価できる状態である。理事会は適正に運営されており、また、学長をリーダーとして教授会も適正に運営されている。

改革・改善に向けて、自己点検・評価活動を継続して実施し、その結果も公表している。教職員が改革・改善に係わる工夫がなされている。また、相互評価を実施している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

実学、労作教育を柱にした各学科の教育目的・教育目標が示され、年度末に常に点検されている。

評価領域 教育の内容

一般教養科目の改善を行い、学生実態への教員調査を実施している。

評価領域 教育の実施体制

教育施設、特にLL演習室、ML演習室が十分に活用されている。

建学の精神である「実学」を実践すべく、密接な師弟関係を形成していることは特筆される。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

就職先から人材養成のための意見聴取を行っている。

評価領域 学生支援

『学生生活ハンドブック』を作成している。また、他大学との連帯によるリサイクル運動を行っている。

評価領域 研究

地域に短期大学の知的財産を公開するために、文化教育研究所を設置し、講演や幼児体育、絵画指導を実施している。

評価領域 社会的活動

演奏活動、公演活動、公開講座などを通して市民との幅広い交流が展開されている。

障害者施設、老人施設へのボランティアを行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

教育目的・教育目標については、学生の実態と社会の要請を理事長に報告し、理事会と短期大学の両者によって点検と教育活動の改善をさらに図ることが望まれる。

評価領域 教育の内容

シラバスには、必修・選択などを明記して学生の履修計画に資するよう努められたい。資格取得と大学教育の観点からみて教養科目の増設などカリキュラムのさらなる改善工夫を期待する。

評価領域 教育の実施体制

教員採用、昇任選考の手順などを整備されたい。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

外部アンケートを教育にフィードバックする方途を組織的に検討されたい。

評価領域 管理運営

事務効果を高めるための学内外の研修が望まれる。

評価領域 財務

中・長期の財務安定化を図るために計画を明らかにし教職員への周知を図ることが望ましい。

評価領域 改革・改善

評価のフィードバックを改善に反映させる組織体制を確立されることが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神および教育理念の今日的解釈の説明がなされている。

実学、労作教育を柱にした各学科の教育目的・教育目標が示されており、各年度末に通常形式で点検している。

教育目的・教育目標を共有するための取組みについて、管理職の努力は認められる。全教員への浸透については更なる取組みが必要である。

評価領域 教育の内容

資格取得のための必修単位が多い中で、基礎科目（必修）、教養科目（選択必修）の上に専門科目を履修するよう構成されている。

専門教育科目については、学生自身の専攻学科の受講に支障ない範囲で受講可とし、6単位を限度に卒業単位に取り込んでいる。ただし極少数講座は検討の余地がある。

シラバスは冊子として編集され配布されている。

授業内容および教育方法の改善への取組みとして、平成15年度に一般教養の改善を行い、平成17年度には学生実態についての教員調査を行い資格取得必修単位も視野に入れ、平成18年度に方向性を定めるよう審議している。

評価領域 教育の実施体制

短期大学設置基準を上まわる教員数を有し、資格、資質ともに充分である。

各学科の教育施設は整備され活用されている。L L演習室、M L演習室が顕著である。図書館は学生の実習教材作成に資するよう整備されているが、幼稚園教育、保育そのものに係る文献の充実が望まれる。

「楽学」のもとでの師弟同行の様子が構内参観時にも見受けられ充実した教育体制がとられている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

学生の単位取得、資格取得、就職率、休学・退学者数の状況を総合的にみるとおおむね教育目的を達成していると判断できる。また、教員の授業に対する学生評価も取り入れ授業改善の足跡もみられる。

幼稚園、保育園への意見聴取により、卒業生の勤務状況を知るとともに職場に必要な人材養成のための意見を集めるなどの取組みがみられる。また編入大学および卒業生評価も行っている。

評価領域 学生支援

入学に関する支援については、学科の中身がもう少し詳細に表現できることが望まれる。4回のオリエンテーション、チューター制による少人数での助言活動が行われている。各教員が支援センターの役割を果たし、学生部と連帯した指導がなされている。

隣接の広島市内には多くの同系大学がある中で80%以上の就職率を確保していることは素晴らしい。短期大学、卒業生の努力がうかがえる。

社会人入学、長期履修生の受け入れを行っている。障害者に優しい環境づくりが必要である。

評価領域 研究

F D活動は効果的に行われている。個々の研究は紀要と「幼児教育研究報告」に発表されている。研究活動の活性化について、標準的な整備は行われている。

演奏活動、講演活動などが活発に行われ紀要や研究報告書も作成されているが、地域貢献、学生教授のために多くの教員の研究活動を期待する。

地域に短期大学の知的財産を公開するために、文化教育研究所を設置し、講演や幼児体育、絵画指導を実施している。

評価領域 社会的活動

社会人入学のほかに長期履修生の受け入れを行っている。また、公開講座6～7講座(1講座10コマ)を前、後期に開設している。子育て支援サークル、地域機関、団体との交流も多い。

ボランティアサークルが中心となり行事イベントへ参加している。施設、幼稚園、保育園との交流活動も盛んである。

評価領域 管理運営

理事会は適正に運用されているが、短期大学については学長の裁量に任せる部分が多い。理事長には現状把握の上、大局的な指示、リーダーシップが望まれる。

学長をリーダーとして教授会が運営され、各種委員会とその規程が定められる、という短期大学の運営体制をとっている。

事務組織が整備され各部下の職務内容が明記されている。必要規程、帳簿も揃っている。就業関係は特に課題はない。教員の勤務は電話で確認するなど厳しい。女子職員には卒業生を多数当てていることから運営上利点は多いが課題もある。

評価領域 財務

財務運営は適切に執行されていると判断したが中・長期の財務計画が見えて来ない。今後の大学像ともかかわって早急な検討が望まれる。

研究活動の推進以外に人件費などの点検を行い、財務体質の改善としても取組みたい。また定員充足率の改善計画を立てられたい。

施設設備に関して必要な台帳は整備されていると判断した。

評価領域 改革・改善

自己点検・評価の要項などは整備され、組織運営も努力の足跡がみられた。またFD活動、授業評価の活用も図り、点検結果も公表されている。

学長直轄の15専門委員会を構成し、学科会なども加わって全員が改革・改善に関わるようにしている。

大阪千代田短期大学との相互訪問による相互評価を実施し、報告書もまとめられている。